

# パラリンピック 競技 図鑑 2020 東京

ポッチャは、脳性まひ者ら重い身体障害があってもできるような欧州で考案されたパラスポーツだ。個人やペア、チームで赤と青に分かれ、ジャックボールと呼ばれる白い目標球へと持ち球を投げ、どちらが近くに置けるかを競う。氷上のカーリングと似ているが、目標の位置を自由に決められるため、多彩な戦略と頭脳戦が展開される。

一九八四年大会から実施されている。前回のリオデジャネイロ大会では、日本がチーム戦で銀メダルを獲得し、認知度がぐんと上がった。コート内にある投球スペースから、先攻がまず目標球を転がし、続いて先攻と後攻が持ち球を一球ずつ投じる。その後は的から遠い地点に球を置いた側が投げる。六球ずつ投げたら一エンドが終了。個

## 緻密な技で頭脳戦

### 普及へ体験会開く

競技は障害の重さや種類に



スポンサーの学習塾・高浜さん

### 「ムーブメントを」

(神谷円香)

ポッチャは球さえあれば誰でも楽しめるため、体験の機会をつくる企業や学校が増えている。学習塾「花まる学習会」を展開する「こうゆう」(さいたま市)は昨年、日本ポッチャ協会の最大スポンサーとなり、資金面で支えるほか、塾で体験会を開いて普及を後押しする。「ムーブメントをつくりだしたい」と高浜正伸代表(60)＝写真＝は話す。知的・身体障害がある長男丈太郎さん(20)が特別支援学校時

代にポッチャに夢中になったのを機に、その存在を知った。最初は「何それ?」と思ったが、学校対抗の大会で熱くなって応援する保護者らの姿を見て、可能性を感じたという。

「(障害の有無など属性にかかわらず全ての人を包括する)インクルージョンはずっと考えている。支援するなら善意で終わるだけでなく効果を考えた」。誰もが対等に競えるスポーツとして広まることを望んでいる。

## ポッチャ

人戦とペア戦は四エンド、チーム戦は六エンドの総合成績で勝敗を決する。

球は手のひらサイズで、重さは二百七十五gを基準にプラスチック製で、滑りやすさが異なる球を使い分ける。トップ選手は目標に球をびたりと寄せ、球が密集している場合は他の球に載せることも。その緻密な技は見どころの一つだ。

七月に韓国で開かれたアジア・オセアニア選手権で、このクラスの河本圭亮選手(20)が「アジアに高レベルの新しい選手が出てきている」と危機感をにじませるように、世界の技術も上がっている。日本は開催国枠で東京大会の各種目に出場できる。十二月に愛知県豊田市である日本選手権が代表の座を懸けた重要な一戦となる。

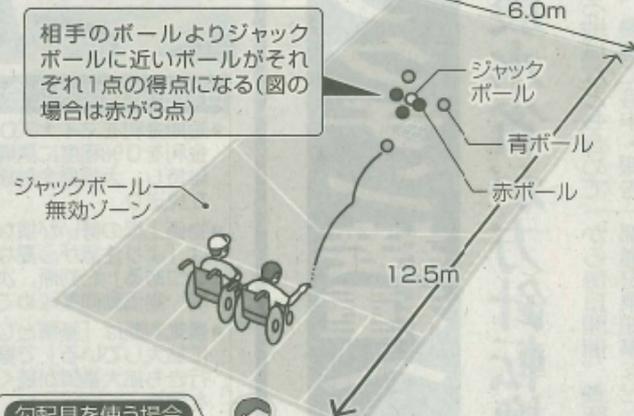
## ポッチャ

### ルール

6球ずつボールを投げ、どれだけ目標球(ジャックボール)に近づけられるかを競う。個人競技とペア、3人ずつのチーム戦の3種目あり、男女混合で行う



(競技のピクトグラム)



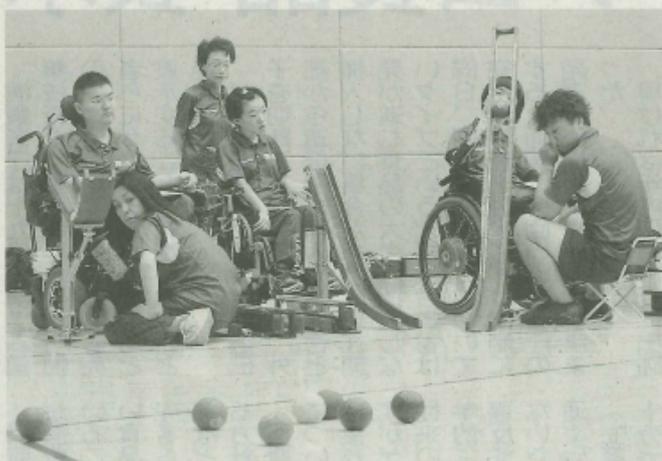
### 勾配具を使う場合

自分で投げられない選手は勾配具(ランプ)と呼ばれる器具とアシスタントの助けでボールを転がす



### アシスタント

選手の指示通りに勾配具を動かす。口をきくことやサインを送ること、ゲーム中のコートを見ることは禁止



強化合宿で、アシスタントとともにランプを使ってプレーする選手たち＝東京都北区のナショナルトレーニングセンターイーストで